

「合格への道」

明治大学（政治経済学部経済学科）

男子Aくん

（はじめに）

この度は受験体験記を書くことができ、大変うれしく思います。この受験体験記を読むことで、この先受験を迎える後輩諸君の不安を少しでも拭えれば幸いです。

（苦手でもあきらめるな！！）

受験に向かって勉強をする際、苦手な科目であっても諦めないということが一番に大切です。私は中学生のころから数学がとてつもなく苦手で、高校1年生になっても数学ができず、数学を受験で使うことを諦めそうになっていました。しかし、素晴らしい数学の先生に出会うことにより、大学受験を迎えるころには一番の得意科目となりました。このような経験を通して、苦手な科目があるならば、まずその科目に関心を持ち、好きになることが大切です。そうすることで学習に対しても自立的に、積極的に取り組むことができるようになり、学力の向上につながります。私自身、数学の体系化された学問としての美しさに気づいてからは以前まで消極的であった数学に対する学習の姿勢が、全国数学生徒研究発表会（マスフェスタ）に参加し、大学数学をも自分で学ぶほど積極的なものとなり、学力も著しく向上しました。

先ほども言った通り、苦手な学問においても諦めずに興味、好奇心を持つことがとても大切です。

（勉強を進めるうえで大切なこと）

定期試験の勉強を進める際、暗記に頼りがちな生徒も多いのではないのでしょうか。自分も最初はそうでした。勉強を進めるうえで本当に大切なのは、学習した内容をただ単に暗記するのではなく、それらを多面的に捉え、論理的に体系化することが大切です。またそれを行うことで初めて質の高い学習ができると思います。簡単に言えば、ある単元を学んだならば、ほかの単元との繋がりを考えたり、一つの問いに対して様々なアプローチ（別解）を考えたりするなど、暗記するだけでは得ることのできない論理的思考力を身につけることができます。そうすることで、一つ一つの科目に対する理解度が増し、成績向上を図ることができます。個人によって違いはあると思いますが、この勉強法をすることで普通に暗記をすることに比べてより記憶を定着させることができると思います。

（勉強の進め方）

・1・2年次

先生方からも言われると思いますが、国語、数学、英語の3科目に特に力を入れて学習しましょう。3年生の後半では共通テストに向けて社会、理科の勉強が多くなっていくと思います。なので、1・2年生の早いうちに基礎的な学力を固めておくことが大切です。理科、社会に関しては定期テストをペースメーカーとして国数英の3科目に重心を置きながらもしっかりと取り組んでいく必要があります。特に歴史では学習する内容が大変多いので、共通テスト直前で詰め込むことは厳しく、普段からまめに取り組んでおくとういでしょう。

・3年次

3年生になってからは、理科と社会に取り組む時間が必然的に多くなります。国数英は1・2年次に固めた学力をもとに学校で配付された問題集などを使って復習をしながら、大学の過去問を解くなどの問題演習をひたすら行いましょう。

共通テストが近くなってきても、学習時間の多くを共通テスト対策に割く必要はありません。各授業、授業が終わり次第共通テスト対策を行ってくれるので、その時間を有効に使うことで共通テスト対策をしつつ、自分の志望校の過去問にも並行して取り組みましょう。

また、トップ英進部・英進部では朝や放課後に課外授業を行っている科目もありますので、積極的に課外授業に取り組みしましょう。

（最後に）

トップ英進部・英進部には夜遅くまで学校を開放し、残って質問に答えてくださる先生方がいらっしゃるため、勉強するにはこの上なく素晴らしい環境が整っています。また、進路に関しても先生方が親身になって相談をしてくださり、詳しくかつ適切なアドバイスを頂くことが出来ます。そのような環境を最大限に生かしましょう！

後輩諸君が志望校合格という結果を勝ち取れるよう心から応援しています！

「受験体験記」

東京大学（文科二類） 女子Bさん

私は、勉強とバレエと地球環境クラブを続けるために、高校を作新に決めました。やりたいことに挑戦して無事受験を終えることができ、ほっとした気持ちです。

課外活動と進路決定

5歳から続けていたバレエは、私にとって一番真剣に努力できる大切なものでした。レッスンの時間を減らしたくないということが、勉強の成績を維持するモチベーションでもありました。

高校3年の夏の発表会があり、たくさん考えた末、挑戦することを決めました。模試を受けてからリハーサルに向かったり、授業中も姿勢を良くして体幹を鍛えたり……バレエに夢中だった期間は、大変なようでとても充実していました。いただいた大きな役を楽しんで踊りきれたことは自信になり、受験勉強への良い切り替えができたと思います。

色々な課外活動に参加する中で、もっと深く知りたいと思うことがたくさんあったので、前期教養課程で幅広く学んでから将来やることを考えられる、という東大のカリキュラムが魅力的だと感じました。文科二類に決めたのは、元々ビジネスや経営に興味があり、高校の世界史で経済や商業が及ぼす影響の大きさを感じて、学んでみたいと思ったからです。

その時々で力を入れているものがあって、充実感を持って生活できました。やってみようには挑戦し、それと受験勉強とが互いに支え合うような状態を作れると良いと思います。

勉強

勉強時間が少ないことはずっと自覚していたので、入試に必要！やりたい！と思う勉強を選んでいた気がします。内容や方法は本当に人それぞれなので、取捨選択しながら自分に合うものを見つけると良いと思います。

特別ではないですが、情報の一つとして、私のやったことを紹介します。

・1年生～3年生の7月

普段は時間がある時に少しずつ勉強して、定期テストの前の期間に、どの教科も試験範囲を出来るようにしていました。まとまった時間が取れる時には、全体の復習もしていた気がします。

・受験勉強 3年生の8月～

実際に勉強量を増やすのは難しかったので、学校に行くなどして環境を作るようにしました。

国語：先生に添削指導をしていただきました。指摘やアドバイスがためになったことに加え、ファイル数冊分演習できたことは自信にもなりました。どの教科でも、自分の理解度に合わせて指導していただけるのはとてもありがたかったです。

数学：先生に勧めていただいた問題集がメインでした。数学に苦手意識があった自分が選ぶよりも信頼でき、やっていることに自信を持ってました。

世界史：授業が楽しかったです。添削指導をしていただき、補習にもお世話になりました。覚えられていないことや関連すること、論述の書き方も学べて良かったです。

日本史：添削指導をしていただきました。東大入試で問われる仕組みや特徴は、自力では知らないことが多かったのですが、理解した状態で本番を迎えられて良かったです。

英語：英語ディベートに参加させていただいていたこともあって、自然に得意科目になりました。英作文は、たくさん添削していただいたことで書きやすくなった気がします。

・良かったこと

どの教科もバランスよく勉強できていたことに、本当に助けられました。例えば共通テスト本番では、普段苦戦していた数学ができて、初めて目標を超える点数を取ることができました。二次試験では、全教科でいつも以上の出来をそろえられたようです。共通テストと二次試験の総合で、文科二類の最高点を取ることができました。

自分で考える勉強の内容や方法が正しいのか、ずっと不安はありましたが、一番良い形で終わったので、私に合う勉強ができていたのだと思います。

受験を通して印象に残っていること

共通テストの初日と二次試験の2日目の朝に体調を崩し、ふらふらのまま会場に向かいました。心身ともに支えてくれた母には感謝しています。

共通テスト会場の入り口で出迎えてくださる作新の先生方を見てどんなに勇気づけられるか、会場で友達と話してどんなに安心するか、試験当日に具合が悪くなったからこそ、分かることだと思います。(皆さんは体調管理に気をつけてくださいね。)

二次試験の朝も、違う場所で同じように試験を受ける友達の存在に力をもらいました。

一抜けしようと一人頑張っているつもりだった私にとって、学校と仲間の存在に励まされてその大きさを実感し、緊張よりも感謝を感じながら試験開始を迎えられたことは、特に印象に残る経験でした。

在校生の皆さんへ

私は、自分の目標を本当にたくさんの方々に応援していただけてとても幸せでした。そんな応援に応えたいと思うと、力を出せた気がします。

そして、本番は緊張に飛び込んでしまわず、緊張や興奮を楽しむ情熱的な自分と、客観視するような冷静な自分を、両方保つこと。後悔なく試験を終えられますように。

皆さんのご活躍を心からお祈りしています。

お世話になりました先生方、ありがとうございました。これからも頑張ります。

受験体験記

宇都宮大学（共同教育学部学校教育教員養成課程／教育人間科学系）

女子Cさん

はじめに

私の受験体験を伝えることで、少しでも後輩の役に立てれば幸いです。やってよかったこと、逆に失敗したことをお伝えしたいと思います。

1・2年生

1・2年生は、基本を固めることが重要です。古典なら文法事項や単語、英語なら単語や音読の習慣、数学なら問題の考え方などの基本事項を落とさずに学習することが大切です。1年生の時から基本事項をしっかり学習しておけば、2年生以降の学習もスムーズに進めることができるので、毎日少しずつ国語、数学、英語の3教科には触れておきましょう。

学習だけでなく、自分の志望する分野が学べる大学を詳しく調べておくことが重要です。自分の将来について志望する職業までは決まらなくても、気になる分野について調べておくことで、後悔のない文理の選択ができます。また、将来の目標が明確だと勉強で行き詰まった時も、自分が何のために今学習しているのかをはっきりと意識でき、逆境に立ち向かうことができます。

3年生（進路選択）

3年生は、あっという間に過ぎていきます。まだ進路が決まっていな人は、担任の先生や周りの人に相談しながら進路をなるべく早く決めた方がいいです。推薦関連の入試は早い段階から始まります。手遅れになる前に早く進路を決めましょう。

もう決まっている人はオープンキャンパスなどの大学主催のイベントに参加し、情報を集めると後々役に立ちます。実際にオープンキャンパスに参加することで、大学の雰囲気を感じることや、先輩の話を知ることができ、これは進路選択に有効的です。第1志望の大学だけでなく、併願校も調べておくことも大切です。受験する大学を決める面談で、今まで受けるつもりがなかった大学を受けることになるかもしれません。私自身直前で併願校を1校追加しました。受験は何が起きるかわかりません。直前で焦らないためにも少しでも受験する可能性のある大学は調べておきましょう。

3年生（学習）

- ・古典 3年生の前期では文法事項や古文単語などの基本事項をしっかり学習した方がいいです。文化史などは疎かにせず、便覧などでよく確認しましょう。私立大学の過去問でよく出る大学もあるので、後期になってからでは間に合わない可能性があります。少し自分の受験する大学の過去問を確認しておきましょう。3年生の後期では、共通テストの演習や二次試験対策を毎授業で行います。学校では共通テストの対策をたくさんやるので、私は自分で α 教材を買いませんでした。間違えた問題、迷った問題の解説にマーカーを引くなどして、解説を読み込みましょう。
- ・現代文 3年生の前期では漢字が苦手な人、現代文中で出てくる専門的なワードの意味が曖昧な人は、日常的に調べる習慣をつけましょう。3年生の後期では、古典同様漢字や語句の問題の解説を読み込みましょう。より正しい答えを選ぶために、消去法を使い、一度自分が選んだ答えを疑った方がいいです。ケアレスミスを防ぐことができます。
- ・数学 私は数学が特に苦手でした。模試でもあまりいい点数をとれたことがありませんでした。しかし、3年生の12月に私立大学の入試で数学を使うことにしました。その大学の過去問を毎日先生方に質問をし、本番では自分の納得のいく結果になりました。共通テストでは、そのおかげで模試以上の点数をとることができました。最後の最後まで諦めなければ苦手な科目でも伸びます。数学が苦手だという人も、諦めずに最後まで学習してください。
- ・英語 私は英語も苦手でした。共通テストの演習や私大の演習で最後は少し伸びましたが、間に合わなかったと感じました。共通テストよりも私立大学の英語の試験の方が難しいので、特に私立大学の受験を考えている人は、英検を早くにとっておくべきだと思います。私立大学によっては英語検定の結果を使うことができます。早めに調べておきましょう。

- ・日本史 日本史は教科書をどれだけ読み込んだか、共通テストの形式に慣れたかが勝負を決めると思います。私は教科書を共通テスト前に読み込みましたが、正直間に合いませんでした。夏休みなど、時間のあるうちからたくさん読んだ方がいいです。図録などで文化史もよく確認しましょう。
- ・現代社会 私はカタカナを覚えることが苦手だったので世界史ではなく、現代社会を共通テストで使いました。しかし、現代社会は略称のアルファベットやカタカナの単語がたくさん出てきて大変でした。略称は元の英語と一緒に覚えた方が覚えやすかったです。歴史の科目に比べ、授業数が少なく、演習量が足りなかったので私は授業以外で共通テストの赤本を買い、3年生の冬休みでたくさん解きました。高得点がとりにくい教科といわれていますが、問題演習をすることで高得点がとれました。共通テストで使おうと考えている人は、早めに学習を始めましょう。
- ・基礎理科 文系だからといって疎かにしてはいけません。他の人と差をつけられると思って3年間で行う定期試験対策をしっかり行いましょう。

最後に

私は共通テスト前最後の模試でも第1志望の大学のA判定が出ませんでした。しかし、自己採点の結果で出した志望校の判定で初めてA判定を出すことができました。成績が伸び悩んでいる人がいると思います。私は最後まで諦めずに学習することで合格を勝ち取ることができました。つらいときはつらいと声に出してみよう。周りの人がきっと助けになってくれます。周りの先生や友人を頼りながら最後まで諦めずに夢に向かって進んでください。多くの皆さんが第1志望の大学に合格できることを祈っています！

自分軸を保つ

上智大学（総合グローバル学部総合グローバル学科）

女子Dさん

私の受験体験記が後輩の皆さんの受験に役に立つようなものになれば幸いです。

はじめに

私が皆さんに一番伝えたいことは、何のために希望する大学を目指し、何を学び、将来どう生かすのか、どんな人材になるのか、という目的意識を固め自分軸を保ち続ける、ということです。もちろん個々人で現時点での将来の認識に差はあるでしょう。すでに目標が決まっている人も、これから探す人もいるはずですが、ただ、“なんとなくやる”という意識で受験に挑もうとすると、確実に目標意識を持っている他の学生とのモチベーションの差が生じます。高3の限られている受験期において、いかにモチベーションを保つかという点は、自分自身の勉強の質を高めるために私は必要不可欠だと感じました。私自身受験は、良い大学に行くために勉強するのではなく自分の将来に繋げるための通過点だと受験期を通して改めて考えさせられました。私は夢を決めるべき、とは言いません。ただ“なんとなく”の受験ではなく、しっかり自分と向き合って悔いの残らない受験にしてください。

私の受験・志望校について

私は、上智大学総合グローバル学部にて公募推薦で合格しました。なので、ここでは推薦という点に触れていきたいと思います。

私が公募推薦を考え始めたのは2年生の春、対策を本格的に始めたのは2年生の冬です。私は高校に入学した頃から、国際関係の分野に進みたいと考えていました。高校生の間に、様々なイベントや活動に参加し、国際分野の中でも特に自分が学びたい分野を見つけ、目標を定めた際に、この学校のこの学部でしか得られないものがあると感じ志望しました。大学の入試傾向を調べた際に、公募推薦を知り、推薦を考え始めたと思います。今から言えますが、正直公募推薦の問題を見るまで、詳しく知るまで、少し推薦を甘く見ていたと気づかされました。高校の授業では触れることが少ない、世界の社会課題に対するアプローチ方法や考えを問われる小論文、最初はほとんど手が出なかったのも覚えています。ただ幸い、私が過去に推薦に対して抱いていた偏見の間違いに気づき対策を2年生のうちから始め、1年以上対策できたのが良かったです。私は推薦という選択肢を受験において決して悪い選択肢ではないと思います。ただ、甘くは見ないでください。私は、公募推薦であったため、落ちるリスクがあったうえでの挑戦でした。その為、落ちた場合に備えて、もう一度同じ学校に挑戦するための一般対策も並行して行っていました。正直特に直前はいっぱいになる時もあったし、一般に向けて日々努力をしている友人たちを見ると、自分の推薦という選択肢に自信を無くし、不安になる時もありました。推薦だから大丈夫、倍率が低いから、などといった甘い考えは捨て、推薦を考えている皆さんはとにかく全力で向き合ってください。とことん自己探求をして、自分をよく知ってください。ありのままの自分で挑戦してください。

勉強について

ここでは、私がやってよかったことをいくつかシェアしたいと思います。

①計画表を作る

私は物の管理が得意なほうではありません。だからこそ、長期・中期・短期に分けて計画を立て、今自分が何をすべきか目に分かる形にしていました。

例) 長期→英語の問題集を終わらせる

中期→その問題集の数か月のノルマを決める

短期→その問題集の1週間のノルマを決め、各日に振り分ける（何も書かない予備日があると◎）

クリアできたところを消していく達成感が好きでした。（笑）

②隙間時間は、リスニングやニュースを聞く。

ちょっとした時間に手軽にできるのにかなり効果がありました。

リスニングは速読英単語を聞いていました。普段の授業でリスニングに触れられる時間は限られているからこそ、自分で時間を確保する必要があります。またニュースは一見受験に関係なさそうでかなり役立ちました。私は、ラジオやPodcastを使いニュースを深ぼりしたものや解説を聞いていました。英文は社会問題が取り上げられるこ

とが多かったので、英文の内容が理解しやすかったり、英文の状況を描写しやすかったりすることが多かったです。

③映像の世紀を見る

私は世界史選択ですが、得意ではありませんでした。その為、時代の流れをつかむために、DVDを使って流れを頭に入れようと努力しました。大まかな流れが身についたりこれがきっかけで興味を持てたりした部分もあったので時間がある時にはおすすめです。

最後に

受験、高校生活は本当に一瞬でとても濃いものです。1・2年生の皆さんは、ぜひ時間がたくさんあるうちに興味のある分野のイベント等で視野を広げたり、どんどん挑戦したりしてください。3年生の皆さんは、目標を見失わず、本気で頑張ってください。ライバルは自分です。絶対皆さんなら大丈夫。皆さんの努力が実を結ぶことを祈っています。応援しています。

受験を通して後輩の皆さんに伝えたいこと

千葉大学（文学部人文学科国際言語文化学コース） 女子Eさん

私は、第一志望の大学に推薦で合格しました。世間ではまだ多くの方が、一般受験より推薦入試の方が簡単に合格できると考える人もいます。しかし、推薦で合格するには、多くの時間と労力が必要です。推薦入試は、一般受験よりずっと早く始まります。受ける大学についてしっかりと学び、小論文や面接、個別試験がある場合は、その対策を普段の勉強そして、共通テスト・私大国公立の一般受験への対策と同時並行で行わなければいけません。また、合格発表があるまでの間、今まで一般受験のみの方がやっていた対策に追いつけるように勉強しなければなりません。推薦を受けたから絶対に受かる保証はありません。なので、推薦だからといって甘くみていては絶対にいけません。私は、1・2年生の時に英語のエッセイコンテストに応募したり、2年生の時には、英語ディベートの大会に出場したりしました。推薦入試では、普段の勉強だけでなく、課外活動や検定資格などが大きな役割を果たします。そこで私は、後輩の皆さんにどのような勉強方法、生活、メンタルケアをしていたかを共有したいと思います。

（1）勉強方法

日々の授業を大切にしてください。入試で問われるものは、全て教科書や学校でもらう教材の中にあります。一つ一つのことを着実に自分のものにしてください。少しでもわからないところがあったら、友人や教科担任の先生に聞くのがおすすめです。また、私は個人的に友人と一緒にいる方が勉強に集中することができたので、放課後、学校で一緒に居残って勉強していました。一人一人に合う勉強場所やスタイルは違うと思います。なるべく早く自分に合ったものを見つけてください。また、1・2年生のうちに英検や各種検定などを受けておくことをお勧めします。英検の取得のために勉強した英語力は必ずどの受験勉強においても役立つと思います。また、1・2年生の夏に、大学や一般社会法人などが主催している高校生向けの論文大会などに応募するのも良い経験になると思います。大学入試の際、多くの検定や論文提出経験があると、プラスに働くことが多々あります。私もそのうちの一人でした。

（2）生活習慣

適切な睡眠時間をとってください。また、食事もしっかりとってください。生活習慣が良くないと、勉強も捗りません。一度体調を崩してしまうと、回復するのに時間がかかります。その間は、十分に勉強もできないので、勉強することも大切ですが、自分の健康管理をしっかりし、生活習慣を乱さないようにしてください。自分の体調管理も学習のうちの一つです。

（3）メンタルケア

人は誰でも落ち込みます。悔やんだり、悩んだりしていても、結果は変わりません。終わったことなので、どうしようもないです。結果を見て落ち込むのではなく、「今回はこれだけできた。ここができなかったから、次はこれができるようにしよう」と小さなことでいいので、自分のできたところを見つけてみてください。この積み重ねがやがて大きな結果に繋がるかもしれません。それでも辛い時もあります。辛くなったら、泣いても大丈夫です。枕に向かって叫んでもいいです。リフレッシュのために趣味、好きなものに一旦没頭してもいいです。時には、友人、先生、家族に相談してみてください。必ずあなたのために一緒になって悩みを解決してくれます。自分のメンタルをしっかりとケアすることも勉強の中の一つです。

受験期になると、周りの人の結果や判定がより一層気になると思います。しかし、周りのことなど気にせずに、自分の第一志望に進めるように、我武者羅になって頑張ってください。自分の未来は、自分でしか切り開くことはできません。自分自身としっかりと向き合って、頑張ってください。このメッセージが後輩の皆さんの背中を押す少しのきっかけになれば幸いです。後輩の皆さん、皆さんの可能性は無限大です。輝かしい未来に向かって突き進んでください。応援しています。最後に、私が受験期に心の支えにしていた言葉を送ります。

努力していたものが成功するとは、限らない。
しかし、成功したものは、必ず努力している。

最後までお読みいただきありがとうございました。

「受験体験記」

静岡文化芸術大学(文化政策学部国際文化学科) 女子Fさん

はじめに

この度は受験体験記を書けることをとても嬉しく思います。ここでは私の経験やこうしていればよかったと思ったことを書きたいと思います。少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

1・2年生

1年生のときは特に力を入れてやったことはなかったですが、定期テストの2週間前頃から定期テストに向けた勉強を始めました。主に学校の教材を使って復習し、良い成績をとることを心掛けました。2年生からは歴史教科が始まり、私は世界史が好きだったので、隙間時間にチェックリストをやったり電車で教科書を読んだりしてできるだけ知識量を増やすように努めました。歴史教科は早めから力を入れて取り組むと3年になったときに用語を一気に覚える必要がなく楽なのでおすすめです。

3年生

私は面倒くさがりで英単語を3年生になるまでまともにやっていなかったのですが、まず夏休みまでにターゲット1900のセクション15まで覚えめました。当たり前のことではありますが単語の意味が分かると英文が読みやすくなるので、絶対に2年生までに英単語や文法を完璧にして、3年生からは英語長文の勉強に集中していったほうがいいと思います。夏休みは数学を主に勉強しました。最初は青チャートを使っていましたが、レベルが合っていなかったため教科書から復習しました。2学期の後半からは授業も共通テスト対策になっていったので授業にしっかり取り組み、間違えてしまったところは放課後や帰った後に確認して間違えないようにしました。冬休み中は苦手な国語や現代社会を主に勉強しました。生物基礎や化学基礎にはあまり時間を割けませんでした。時折教科書を読むなどできるだけ覚えたことを忘れないようにしました。世界史が一番得意だったこともあり、勉強を後回しにしていたのですが、本番の共通テストであまり良くない点数をとってしまったので、得意だからといって後回しにせずどの教科も少しずつでも毎日勉強すべきだと感じました。共通テストでは英語のリーディングが最後まで解けなかったり生物基礎の問題が思考力を問うものが多かったり難しかったのですが、合計点は自己最高点をとることができました。二次試験対策では、私は国語も英語も記述問題が凄く苦手だったので、まず赤本の過去問を全部解いていきました。その後、国語は学校で配られた現代文の記述問題集を全て解いてその後はもう一度過去問をやったり、自分で買った問題集で勉強したりしました。英語は、私が受験した大学は解答の仕方が英文和訳の問題以外すべて英語で答えるものだったので、過去問の解答を見てどのように答えればいいのか研究しました。ライティングの問題は語数が150語以上と多かったので、英検の問題を、語数を変えて書くなど、長文を書けるようにする練習もしました。共通テストが終わるまで二次試験対策を全くしていなかったため、もう少し早めにしていればここまで焦らずに済んだのではないかと少し後悔しています。

その他

コロナ禍のため、私の場合現地でのオープンキャンパス参加は3年生の夏休みになってしまいました。もし1年生か2年生のときに参加できていればもっと早く志望校をしぼれて、無駄のない受験対策ができていたと思います。大学のある街の様子やクラスメイトになるかもしれない他の参加者の雰囲気などは現地でないとわかりませんが、とても重要なことなので是非早めに実際に行ってみることをお勧めします。また、受験に行くときは風邪をひかないように調節しやすい服装にするといいと思います。特に受験会場が県外で遠方の方は栃木の気候とは違う可能性もあるので気を付けるといいです。私の場合は風が強く、とても寒かったのもう少し暖かい服装しておけばよかったと感じました。私服で来ていた人も結構いたので、体調や天気によっては制服にこだわらずに、暑さ寒さに気を取られて実力が発揮できないなんてことのないようにしてください。もう一つ、宿泊が必要な場合はかなり早めにホテルの手配をした方がよいと思います。試験前日に過ごす環境は当日の体調やメンタルに大きく影響してきます。なるべく快適に最後の受験勉強ができる環境を準備できるよう、試験日がわかったらすぐ動いてください。

最後に

当たり前ですが、勉強はしておいたほうがいいと思います。もし志望校や興味のある分野が変わっても勉強していればスムーズに対応することができます。うまくいかなくてくじけそうなときはちょっと息抜きしてもいいですが、絶対に諦めることはせずに精一杯頑張ってください。皆さんの活躍を祈っています。

最後に、指導してくださった先生方、特に担任の先生方、その他支えてくださった皆様方には本当に感謝しています。志望大学合格はゴールではなくスタートです。私を育ててくださったふるさとに貢献できる人間となっていけるよう、さらに勉学に励んでいきたいと思います。ありがとうございました。

受験体験記

宇都宮大学（共同教育学部学校教育教員養成課程／人文社会系）

女子Gさん

これから受験を迎える皆さんのお力になることができれば幸いです。

・私の受験

私は、受験に向けての勉強という意識で勉強をし始めたのは、2年生の後半くらいからです。なので、周りの人たちが持つ受験に対しての熱意についていくことがとても大変でした。3年生になってからは、授業でも演習が増えて、より実践的な学習に取り組むことが増えてきましたが、やはり行きたい大学に受かるために頑張らなくてはという十分な意気込みがなければ、受験勉強について行くことは難しいととても痛感しました。

結果、周りの友人や先生方からの励ましのおかげで、何とか共通テストを迎えて無事に国立の宇都宮大学に合格することができました。ただ勉強するだけではなく、受験生としての心構えを早めにすることも重要であるとよくわかりました。

・1・2年生の皆さんへ

1年生から受験を意識して効率的な学習ができているならば、それに越したことはないと思います。私の体験談を読んで、今からでも受験に向けての勉強をしっかりとやっているなら、全然遅くありません。しかし、早い時期から受験に向けての勉強を始めるから偉いということやすごいという話ではなく、勉強に対しての向き合い方がとても大切になってくると思います。自分の将来を見据えて、やりたいことができる場所へのさらなる進歩のために、今学習しているのだと言うことを忘れてはいけません。明確な目標を持つことは、勉強に対してもあなたの将来に対してもとても大切なことです。

・得意、不得意科目に対しての勉強方法

1・2年生のうち、できるだけ苦手科目と得意科目との点数の差異をなくすように努力をするべきであると思います。3年生から苦手科目に手を出すのは、遅すぎることはないとしても、共通テストまでに克服できるかというところであると思います。苦手になりそうと思った時にすぐにわからないところを先生に質問したり、何度も繰り返し問題を解くなどして、苦手意識をなるべく減らせるようにしていったほうが良いと思います。

3年生になってからは、共通テストで、自分は何の科目を何点取ればいいのかなどが明確にわかってきます。それを参考として、得意科目を伸ばせるところまで伸ばすことを意識していくことも大切です。足を引っ張ってしまう教科に関しては、高い目標は設定しなくとも、「せめてこれだけの点数はとる！」という自分なりの最低限の目標に達することを前提として、最後に合格へ導いてくれるのは得意科目であると私は思っています。実際に私も、自分の得意であった科目を最大限まで伸ばすことができました。

得意科目に関しては、絶対に下手を打たないようにすると言う決意を持ってください。最後の最後まで粘り、満点を取る勢いで受験勉強を行ってください。それが自信へとつながり、ますます自分自身を奮い立たせることができるようになると思います。

・3年生の皆さんへ

3年生になって恐らく受験に対しての焦りが徐々に始まる人もいるかもしれません。しかし、受験はやはり今までやってきた勉強の積み重ねと、その思いが全てであることを思い出してください。

また、自分は勉強を始める時期が遅かったからといって、諦めてしまうのはまだ早いと思います。共通テストまで残り1ヶ月くらいになってくると、精神的にも不安が募り、学習に集中することができなくなってしまう人もいるかもしれません。しかしそこで焦っても何にもなりません。いつも通りに自分のペースで学習を続けることが1番です。自分の今までの努力を信じて、共通テスト、二次試験に臨んでください。

・最後に

最後になりますが、皆さんを支えてくれる人が周りにたくさんいてくださる、と言うことを絶対に忘れてはいけません。私自身、家族や先生方に数えきれないほどお世話になったことを、卒業後に高校生活を振り返ってみて、改めてしみじみと感じました。繰り返しになりますが、自分を支えてくださった方々への感謝の気持ちを決して忘れてはいけません。応援してくださっている人たちの気持ちを汲み、自身を鼓舞して勉強に励み、自分の

夢への第一歩を踏み出せるようにしていただけたらとても嬉しいです。私のささやかなアドバイスが読んでくれているあなたの役に立ちますように。

受験体験記

筑波大学（理工学群応用理工学類） 男子Bくん

普段からの勉強では自習室で友達と勉強することをお勧めいたします。理由は大体の人が辛いと感じる勉強を習慣化できることです。やる気”という不安定な感情だけに頼るのは限界があります。なので朝起きて歯磨きするように、放課後に夜8時まで毎日勉強するのが日常という環境にした方が気持ちも成績も安定すると思います。実際、私はこれを3年続けて1年7月の進研模試の59.2から3年7月の進研記述模試で全国偏差値67.8で校内3位に上げました。

1年時は英進部生徒として入学して、2年時から転部して、トップ英進部に転部しました。最低でも宇都宮大などの地方国公立に行きたいならトップ英進部に転部することをお勧めします。

もう一つのアドバイスとして、推薦をかなりおすすめします。私は一般受験生ですが、推薦入試を受けなかったことを後悔しています。作新学院は他校と比べて大きな利点があります。それは大学入試のときに使う調査書に書くための校外活動が豊富なことです。例を出すと英語ディベートやマスフェスタ、科学講演会などあります。私は防衛大の二次面接で重点的に聞かれました。よくネットなどの動画で推薦入試を受けた人を下に見る風潮がありますが、推薦入試という制度が良くないだけであって、それを利用してより楽に合格する人は賢いと思います。

受験体験記

千葉大学（理学部地球科学科） 男子Cくん

私が受験を通して学んだことの中で一番重要だと思ったのは、全国という壁の高さです。中学や高校受験においては首都圏の有名進学校などを除いて基本的には地元の学生が相手となりますが大学受験ではそうはいきません。全国各地もしくは海外、年齢に関係なく受験生が存在する訳ですからハイレベルな闘いになり、誰もが苦しい思いを一度はすると思います。ですがそんな闘いが人間を強くしてくれるのも事実です。人生には必ず壁がありその壁を乗り越えたということが自信を与えてくれます。その壁は少し高い位の方が後になっての達成感や自信に繋がりますし、そのような意味において受験は自分にとってとても意味のある過程だったと思います。

このような受験生活の中で、自分で評価できると思った点は学習方法です。学校の先生を初め、友人や知り合いの人またインターネットや参考書を利用して学習方法のアップグレードすることを常に意識して3年間過ごして来ました。そして自分に合った学習法により近いものを見つけられたと思います。ある程度学習法が定まっている人はそのまま継続すれば良いと思いますが、それが特に無い人はまず身近にいる人の学習法を盗むことを考えると良いと思います。そして良い部分だけを吸収し、自分のものにする。このプロセスを繰り返し、考察を続ければ良い結果を導けると思いました。

逆に反省すべきだったことは、言い訳を結構してしまったことです。結果が良く出た時だけを重視して自分は順調だと過信してしまいました。3年という長い期間を大学受験に愛すのであれば良い結果も悪い結果も必ずあります。自分は悪い結果を素直に受け入れないことがありました。「失敗は成功の母」という言葉がありますが、失敗から成功を導くには、結局その人が失敗から何を学んで、その後どのように落とし込めたかが重要であると、この受験勉強を通して感じました。このスペースで自分の受験を全て語ることはできませんが少しでも参考になればと思います。自分の目標達成のため頑張ってください。

受験体験記

防衛大学校（理工学専攻） 女子Hさん

私は高校生活がとても充実していたように感じます。幸いにも友人や先生方に恵まれ勉学や行事等にも全力で取り組むことができました。しかし、楽しかった高校生活の内でも後悔することやこうすればよかったと感じることもあります。これらの経験を踏まえ、恐縮ではありますが、私が後輩の方々にお伝えしたいことが二つあります。

一つ目は、学業に専念するとしても、笑顔や他人との交流を忘れないということです。私は1年次、学業だけに専念するのであれば、友達も要らないと考えていて、自分の時間や友達と話す時間を削り、勉強していました。そうすべきとお考えになられる方もいるかも知れませんが、間違っています。なぜならば、学校生活を全く楽しむことが出来ませんし、感情などが爆発してしまいます。私は「自分がなぜ勉強しているのか」という問を抱えながら数ヶ月過ごし、その間は勉強に身が入らないこともありました。私のようにならないためにも、支え合えるような友達を1年生の頃から作り、勉強も全力で取り組み、行事も全力で楽しむような高校生活を送って欲しいです。追記になりますが、私は2年次から友達と交流するようになり、沢山の友達ができて、彼女からよい刺激を受け、学業面でも精神面でも大きく成長できたと思います。

二つ目は、先生方に積極的に質問することです。自分の知を恥ずかしいと感じ、質問することを止めてしまうと、分からない問題の先にある知識を得られずに終わることになります。先生方に質問すると、その問題の解答だけでなく、背景や類似問題、作者の意図なども教えてくれるため、問題以上の教養を得ることができます。ですので、積極的に質問へ行き、学びに対する好奇心と止めないで欲しいです。ここで一つアドバイスなのですが、質問に行く際は自分がなぜその解答を考え、どう導いたのかなどの自分自身の考えをしっかりと持ち、伝えることです。そうすることによって自分の考えがどの段階で間違っているのかを理解し、正すことができます。

私がお伝えできるのは、この程度のものですが、他の卒業生や先生方のお話をしっかりと聞き、志望校合格をつかみ、充実した高校生活を送ることができるように、考え生活して欲しいと思います。皆さんの今後のご活躍を陰ながら応援しております。

合格体験記

芝浦工業大学（工学部情報工学科） 男子Dくん

1・2年生の間は、定期試験の勉強は必ず怠けないように。時に数学や理科はその時によく取り組んでおけば、後に復習するときのやりやすさが変わります。中途半端なまま終わると、その後も理解が不分明になり、時間も多くなってしまうので、その時々をしっかりやると良いです。また、英語はよく言われていることではありますが、単語と熟語の使い方を学びましょう。勉強以外でも、2年生の冬頃から、大体の志望校を決め、どの科目の配点が高いかなど入試情報を早いうちに入手しておきましょう。3年生になると調べものをする時間が思ったよりもありません。受験直前まで知らないと、勉強しないといけない焦りが出て来ます。

3年生になったら、主に復習の時間です。この時に、自分の得意、苦手な科目、範囲を見つけておき、優先順位をつけられるようにしましょう。

共通テストと二次試験の対策ですが、これは人によると思うので参考程度に。理科は二次の問題を解ける学力があれば、二次の対策を早めにやめてまでする必要はないと思います。形式に慣れることの方が重要なので、学校でもらう教材で十分です。しかし、他の教科については勝手にかなり違って感じられたので、共通対策は十分に行うようにしましょう。自分は、書店で各予備校の予想問題パックを購入し、最後の仕上げを行いました。

受験期の勉強方法について。私は、勉強の開始時間と終了時間を決めていました。こうすることで、その日に終わらせる量を計画的に定めることができ、しすぎて体調を崩すということもなくなります。量は大事ですが、ダラダラしないためにも、時間管理をしましょう。特に開始時間は必ず決めるようにしましょう。私は開始時間を決めずに、量だけ決めて、夜遅くなるまで勉強をするはめになってしまい、効率が悪い時がありました。

参考書について、私は各教科まず1冊買う。それが終わったら次のものを買うようにし、最大でも3冊(英語、地歴は1冊)が良いです。まず、同時に何個か買っても終わらせることができずに、抜けが出てしまいます。それに、一つで全範囲出来るようになっているものが多いので、一つをしっかり極めましょう。そうすることで他の参考書も解きやすくなり、量をこなせるようになります。最後に、勉強をどれだけサボらないかが一番重要です。頑張ってください。

受験体験記

宇都宮大学（農学部応用生命化学科） 女子 I さん

正直に長々と書かせてもらいます。誰かの役に立てたら嬉しいです。

私は夏休みに面談を行うまで私立大学を第一志望として一般受験するつもりでした。特に部活をやっていないので推薦を受けることなんて出来ないと思っていたからです。志望していた私立大学には1年のころから何度も足を運び、心から「この大学に行きたい。」と思っていました。ですが面談の際に「あなたなら宇都宮大学に学校型推薦にチャレンジできる活動実績がある。チャンスがある。」と言われ、受けることになりました。県内唯一の国立大学が私は「何らかのつながりを作っておけば、もしかしたら役立つかもしれない。」と1年生のときのサイエンスキャンプでは自分の手を挙げて質問をしたり、2年生のときの発展理科講座も自主的に参加し教授とメールのやりとりをするようになりました。(主に研究の質問など)もし少しでもチャンスを増やしたいのなら、様々な活動に自主的に参加するべきです。宇都宮大学に行きたい方はなおさら参加しておくべきだと思います。また、私は塾に通わずに学校ですべて勉強していました。1・2年の頃から土曜はもちろん、長期休暇で学校が開放されている日はほぼ毎日学習室に通いました。私は家で勉強ができないタイプだったので。自分に合う場所を見つけて学習に取りくんでください。日々の分からない所はもちろん、入試の際の小論文や面接など心身になってみしてくれる先生がたくさんいる学校を活用してください。使えるものは全て利用すべきです。

入試のちょうど7日前、普段担任にみてもらっている私は、あまり接点のない優しい印象の先生に面接練習をみてもらい、思うようにできなかつた自分が悔しく、担任の前で号泣しました。その2日後、私はコロナにかかりました。5日後の入試を受けることができなくなりました。本当にショックでした。ですが、後日受験ができるかもしれないと電話で伝えられ私は希望をもち、病床でもひたすらに面接練習をしました。療養期間後の1週間。私は6人の先生と面接練習をし、号泣した先生にもりベンジしました。今思えばあの挫折があったからこそ、コロナになったからこそ、合格することができたと思います。

受験生たるもの心身ともに健康であることは本当に大切です。私の友人も私もコロナになりましたが、二人共陽性となる数日前に心が傷つき、暗い気持ちになっていました。もしかしたら心の弱くなっている人ほど病気になりやすいのかもしれませんが。受験を乗り越えるには健康であることが大切であり、健康であるためには強い心を持つことが大切です。強い心を持って自身の未来のために歩いていってください。心から応援しています。長々と失礼しました。つたない文章ですが誰かの役に立てたら幸いです。

受験体験記

早稲田大学（政治経済学部経済学科） 女子 J さん

共通テスト対策について

私は通学時間が長かったので、英単語や古文単語は通学時に覚えるようにしていました。学校では、実戦形式の対策を多くやっていたため、冬休みまでは苦手だった物理、化学の演習を家でやるようにしていました。冬休みは学校で終わらなかった共テの教材を、自分で買ったZ会の数学、英語のリスニングを進めました。特にリスニングは春頃の模試では30点ほどで壊滅的だったので毎日一つずつやっていました。地理は冬休みに1日10間ずつ進め、問題系を3冊ほどやりました

国立・私立対策について

私は物理と数学が特に苦手だったので12月頃に数Ⅲに見切りをつけ、国立は総合問題の弘前大、私立は経済などを受けることを考え始めました。私立は早慶以外は共テ利用で出願しましたが、MARCHのボーダーが想像よりも高く驚きました。事前に目安を調べておくことをおすすめします。理科大は私の得意な科目しか使わなかったため無事に合格できました。

国立前に一つでも自分が行っても良いと思っている大学に合格していると気持ちがとても楽になります。

弘前大学について

面接ではしつこく「雪は大丈夫か」ということと、「共テに失敗したのか」ということを聞かれました。かなりしつこく聞かれるので、常に穏やかに話せるかということを試されていると感じました。

受験のリアル

東北大学（歯学部歯学科） 男子Eくん

はじめに

これから受験を控えたみんなに伝えておきたいことを正直に書き記す。(あくまで個人的な見解) 文才は全くない。

作新トップ英進部・英進部のみんなへ

トップ英進なら尚更だが、基本的にトップ英進部・英進部は楽しくはない。総進などと比べて変な劣等感を感じることがあるかもしれない。劣等感を活力に変えて勉強しよう。大学に行けばいくらでも遊べる。

受験に向かう姿勢

僕は尖っている方だと思う。と言うのも納得できない事はできないし、それを頭ごなしに強制する大人には腹がたつ。綺麗事には興味がない。それでも大切にしている綺麗事が一つある。感謝の気持ちを忘れないことだ。衝突もあったが1・2・3年の担任や友達や家族にすごく感謝している。感謝の気持ちがギスギスした精神状況を穏やかにしてくれる。感謝の気持ちを忘れないでほしい。

量より質

高校の勉強は量より質。何時間やったかよりも何をやったか、どれだけ弱点を埋められたかを意識してほしい。

最強の勉強法

僕が3年の夏から使い始めた勉強法を紹介する。

①弱点を分析する ex(化学は有機の構造決定、数学は積分)

②to do リストを作る ex 物理 良問の風 47 49 50 40……

国語 古典文法ステップアップノート 3～5……

問題番号まで詳細に書く。to do が終わったら1時間でもあとは遊べばいい。

これが終わった時1点でも良いから上がっているだろうというリストを作れ。

努力は報われるのか

どれだけ頑張っても、たとえA判定でも受験に落ちることは普通にある。宇高の友達を見ていて実感した。報われるかどうかは1回勝負で運も関係しているから正直わからないが信じて頑張るしかない。そういう残酷なゲームであることを知っておいてほしいと思う。

最後に

僕は作新が好きではないがすごく感謝している。僕にご指導下さった先生方本当にありがとうございました。頑張れ作新生！！

～受験は個人戦！主体性5割、運5割！～

東京工業大学（生命理工学院） 男子Fくん

【はじめに】

私自身、先輩方の受験体験記を読んで参考にしていたので、受験体験記を書くことになり光栄に思います。少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

【受験に向けての心構えについて】

最後まで諦めないということを最も伝えたいです。私は共通テストが奮わず、国立の過去問も合格点に全く達しないこともあり、私立大学も多く失敗しました。私の場合それだからこそ国立の本番の只ならぬ気合いの入り方と運の良さにより自己ベストを出せました。だから最後まで諦めてはいけないということを伝えたいです。

【先取り学習について】

難関大学になればなるほど試験に思考力を要し、基礎定着後の演習でアウトプットをする時に培われるのでその時間を多く取るために高1の4月から始めました。また、ライバルの中高一貫校は先取りが当たり前なので、ついていくという理由でも先取り学習を進めました。結果的に演習する時間が周りよりも多くなったので、定着度がより高くなり、数学の難問を解く上で必要な思考力を身につけることができました。良いこと尽くしなので先取り学習をすることをお勧めします。私は高2の夏前には数Ⅲまで一周終わらせていました。高3が始まる前に基礎が完璧になっていることが理想的でしょう。

【模試、志望校について】

1年～3年の春までは勉強法があっているかの確認程度で十分です。判定に一喜一憂する必要はありません。3年の夏からの判定はかなり正確なので信用した方がいいと思います。また志望校について、3年生の春に掲げた第一志望に合格する確率は約10%と聞きました。本当かはわかりませんが、それくらい第一志望は遠い道のりであるということは知っておいて下さい。私の推測では志望校を設定するとその水準を超える学習をしなくなり、ギリギリで滑り込もうという思考になるからであると考えました。いつでも志望校は落とせるので、どうせなら志望校を高く設定して勉強への意識を高めていくことが重要であると思いました。

【理系科目の勉強法について】

(数学)

基礎は、学校で配られたものを何周も学習するのが良いと思います。自分は約5周しました。演習は旺文社の標準問題精講を使っていたが、これは1問最低でも30分考えて解いていくだけでもアウトプットする力がつくと思います。私は解法がわかったらその問題を飛ばして次の問題に取り組んでしまっていたときがあり、成績の伸びが停滞したことがありました。全部解き切ることが重要です。難関大学を目指す方は、やさしい理系数学が、難しい問題を解く上で思考力がつくのでおすすめです。数学の勉強で一番意識していたことは、分からなかった問題の解答を見て1文1文なぜこの発想が出てくるのかを分析することです。この訓練に時間をかけるほど問題の制作者の意図が見えてくると感じました。

(化学)

最初は苦手でしたが、3年生で得意科目になりました。インプットについて。理論化学は教科書や基礎問題精講、無機化学、有機化学はD○シリーズに取り組みました。内容に抜けがないように全て理解し、定着するまで周回しました。アウトプットは重要問題集を取り組みました。これを全部解けるようになるまで周回すれば偏差値70もみえてくると思います。難関大学を受ける方は化学の新演習にも取り組むことをお勧めします。

(物理)

苦手なままでした。なぜか毎試験ケアレスミスが多くなってしまいました。物理のエッセンス、良問の風、名問の森の順番で、解けない問題がなくなるまで取り組みましょう。私はどうしても時間を節約したかったので、数学同様解法がわかったらとばすということをしていましたが、これがミスを増やしてしまう原因でした。解答は見ずに完全に解き切るまで解いていくのが良いでしょう。

【試験の裏ワザ】

数学について、とにかくミス減らすことです。ミスをゼロにすることにより、確実な差がつきます。皆さんの経験の中で計算ミスして30点なくなったという経験をされた方は多いと思います。計算過程を1段1段丁寧に確認することにより、計算ミスによる減点は0点になり、30点分得することになります。また、時間が足らなくなるという考えもありますが、それは計算ミスによってミスを探し、訂正する時間というものが発生しますが、その時間分がなくなります。また今間違っているかもと心配して鉛筆を止めることなく進めることができ、間違った解答をひたすら書かなくて済み、結果的に失う時間は大きくは変わりません。この練習を日頃の定期試験や模試ですることをおすすめします。私は数学で計算ミスがなかったのが要因で受かったと思っています。これだけを意識するだけで偏差値が10上がることもあり得ると思います。

【最後に】

もちろん大学に入ることが人生の成功ではありません。学んだことを社会に活かして初めて成功と言えるでしょう。合格した後は両親や支えてくださった先生方に感謝をし、恩返しをしてください。皆様の合格を心から祈っています。

「自分に自信を持つこと」

筑波大学（生命環境学群地球学類） 男子Gくん

はじめに、受験体験記を書けることを嬉しく思います。作新での3年間での勉強について書きたいと思います。これから受験を迎える皆さんの役に立てれば幸いです。

まず、1年生から3年生の夏までの間はやることはほとんど変わりません。ひたすら問題集を解き、模試を解き直すだけです。標準的な難易度の問題を確実に解けるようにして、赤本の問題を理解する準備をします。

夏休み期間は、1日12時間を目安に勉強するように言われました。ここで、時間を目標にすることは間違いです。あくまで12時間は目安です。12時間やったからといって満足してはいけません。何を身につけたかが重要であって、時間は重要ではないです。12時間よりも全然短くても構いません。勉強する際には時間を決めるのではなく、どの教科のどの範囲をやるのか等を決めましょう。志望校の過去問を解いてみて、入試までには何をすべきかを明確にし、スケジュールを決めて取り組むことが大切です。

夏休みが終わり共通テスト前になると、授業はマークシート対策や共通テスト過去問演習を繰り返します。私は、共通テスト対策は授業だけで、放課後は2次試験対策をしました。共通テスト対策は授業だけでも十分だと思っています。あくまで2次試験が勝負です。共通テストで数十点の差は2次試験で十分逆転出来ます。むしろ数十点の差なんてほぼ無いも同然です。放課後などの勉強時間は2次試験の対策をしましょう。

共通テスト後には自己採点をして合否判定が出ます。どんな判定が出ても変わらずやり続けるだけです。A判定とE判定の差はそこまで大きくありません。2次試験で結果を出せば合否判定は関係ありません。自分に自信を持つことが大切です。入試でも緊張せず模試と同様に挑めば、普段通りの実力が発揮されるはずで、頑張ってください。

次に、大学受験において特に重要なことを二つ挙げたいと思います。

一つ目は、難しい問題集に手を出さないことです。学校で配付された問題集と志望校の過去問を解けるようになるまで何周もして、模試などを解き直すだけでも十分合格ラインに到達することができます。難しい問題集に時間をかけるのではなく、標準的な難易度の問題をしっかりと解き切る実力を身につけることが大切です。

二つ目は、生活リズムを崩さないことです。3年生になってから、スマホやゲームを制限して寝る時間を削って勉強する人が多くいます。しかし、生活リズムが変わってしまうと、眠気やストレスで勉強に集中出来なくなってしまうことがあります。私は1年生のときから放課後も教室で勉強し、この習慣を3年間変えませんでした。勉強する時間を大きく変えることもなく、寝る時間も変えず、スマホなども制限しませんでした。そうすることによって、ストレスも無く3年間常に最高の状態で勉強し続けることができました。

自分のスタイルを確立し、自信を持って受験に望めば、必ず合格を勝ち取ることが出来ます。3年間継続することが大切です。皆さんの合格を祈っています。

受験を経験して感じたこと

明治薬科大学（薬学部薬学科） 女子Kさん

この度は受験体験記の1ページに私の体験記を掲載していただき、感謝しております。少しでもこれから受験を迎える後輩たちの役に立てれば幸いです。

○1年生に向けて

教科担当の先生によって予習をするように言う先生と言わない先生がいるかと思いますが、予習はするべきです。文理選択で理系を選択しようと考えている人は、特に古典、英語の予習は間違いなくした方がよいです。2年生になると理科や地理が入ってきて、どうしても理数系の教科に勉強時間が割かれてしまうので、1年生のまだ時間に余裕がある時に古文や英文の翻訳の力を予習で身につけることをおすすめします。また、古文・漢文や英語の文法のテキストも毎日少しずつ進めるべきです。1年生の時の記憶が、後々3年生の共通テストにとっても役立ちます。

また、わからない問題があるときは、すぐにでも先生方に聞くことをおすすめします。これをいち早く習慣づけることが大切だと思います。先生方は納得するまで丁寧に教えてくださるので、どんな些細なことでも聞くようにするとよいです。成績上位の生徒はよく先生方に質問していました。

○2年生に向けて（私は理系だったので、理系の人向けのアドバイスになります）

文理で分かれていよいよ基礎科目がなくなり受験で使う科目が本格的にスタートしますが、授業が終わった後、いかに早く復習して定着させることができるかが鍵になります。定期テストでその単元の復習をするのもよいですが、できればその日のうちに授業内容を振り返ったり、関連問題を解いたりすることをおすすめします。また、理科の参考書や問題集を買う時期になると思いますが、おすすめの参考書は重要問題集や物理のエッセンスなどです。私たちの代は、これらは教科担当の先生方がおすすめしてくださったものなので、クラスメートのほとんどが持っていました。だからこそ、わからないときに友達同士で問題解決することができました。赤本もそろそろ買い始めて損はないと思います。試しに1年分解いてみるのもあります。

そして、私自身が体験して一番伝えたいことは、早めに大学主催のオープンキャンパスないしは実際に現地に行き雰囲気をつかんだ方がよいということです。私は2～3年生にかけての春休みで志望していた大学に行ってみましたが、これがきっかけで第一志望が変わりました。思ったような雰囲気ではないと思ったり、逆にこっちの方が自分に合っているのではないかと思ったりすることは現地に行ってみて初めてわかることなので、できれば考えている大学すべてに足を運ぶことをおすすめします。

○3年生に向けて

1年生の頃から熱心に勉強に励んできた人にとっては、2年生の冬や3年生の初めの頃から成績が思うように伸びないと悩んでいることも多いと思います。特に、模試で浪人生が入ってくると一気に全国的な位置も偏差値も下がってしまい、無気力に感じることもあるかもしれません。私が3年生、いわゆる受験生にとって最も大切だと思うことは、高いモチベーションを維持し続けることです。私の場合は、失敗談として、共通テストの結果が思わしくなかったときに志望大学は無理かもしれないから、こっちの大学の方がいいかもしれないと弱気になってしまいました。やはり最後まで粘り続けた人が勝つのだと痛感しました。

共通テスト対策は11月くらいから本腰を入れるとよいです。学校でも授業で対策をしてくれるので、その時間はその教科だけに集中すれば、教科が漏れることなくしっかりと対策できます。よく直前になると自宅で勉強するために学校を休む人がいますが、それはおすすめできません。理系の人にとって、学校で文系教科の対策をする時間がとても貴重だからです。また、家で黙々とやるのも息が詰まってしまいます。学校での友達との会話が受験期の皆さんにとって息抜きとなるはずですが、共通テストは過去問を解けば解くほど、点数が上がっていきます。直前ギリギリではなく、計画性をもって対策することが大切です。

2次試験対策は、2年生の頃から鍛え上げてきた記述力をさらに強化するイメージで取り組むとよいです。共通テストが終わってからは、新しい参考書や問題集を買うのではなく、今までに持っていた問題集を完璧にする、ということ意識するとよいと思います。

○最後に

高校3年間で学んだ内容は、大学の講義の基礎知識として必要になります。受験とその先のために、授業を軽んじることなく集中して聞くことがなによりも大切です。そして、その3年間で必死に努力した経験が今後の人生のどこかできっと役に立ちます。自分を信じて、最後まで突き進んでいってください。応援しています。

受験体験記

獨協医科大学 (医学部医学科) 女子Lさん

1年次

入学して初めて受験した模試の結果がとても悪かったので、4月の時点で焦りを感じていました。幸か不幸か、コロナウイルスの影響で休校になったので、自習の時間を十分に取ることができました。勉強時間は、1日13時間程度です。学校が再開してからも、電車、ホームルーム前、休み時間、放課後など、時間があれば勉強しました。長期休みには、それまでに学校で習ったところを一からすべて復習するようにし、1年の終わり頃には、安定して学年の10人以内に入れるようになりました。授業や自習で分からなかったところは、先生に質問するか、アプリを使って理解できるまで考えるようにしました。

2年次

夏休みの使い方を失敗しました。まったくやる気が出ず、一日で8時間勉強できれば良いほうでした。2年の終わり頃に数Ⅲが始まりましたが、それまでの数学とはまるで違うものを感じて、とても難しく苦戦しました。

3年次

受験生だというのに成績の伸びが悪かったことのプレッシャーと、学校からも医学部は無理だと言われ、自分が信じられず、精神的に追い込まれてしまい、不眠症になりました。国公立医学部を志望していましたが、ほとんど諦めていました。しかし、7月頭に塾に通い始め、講師の先生方に背中を押され、ギアを入れ直しました。また夏休みには、初めてオープンキャンパスに参加し、先輩方と話をし、やれるだけやってみようと思うことができました。成績は少しずつ上がっていきましたが、やはり国公立医学部のハードルは高いものでした。秋に入る頃には、共通テスト利用と前期で歯学部、後期に教科が少なく済む医学部を受験しようと思っていましたが、チャンスを増やすため指定校推薦も利用しようと決め、獨協医科大学の指定校推薦枠に出願することに決めました。12月頭に合格者の発表があり、受験が終了しました。

最後に

受験が終わって思ったのは、物理ではなくて生物を選択すれば良かったなということです。生物利用で受けられる大学はたくさんあるし、1年次で生物が得意だったので、自分を信じておけばよかったと後悔しています。

私は、地頭は良くありませんが、我慢強い人間です。高校3年間だけ好きなことを我慢すれば、明るい将来が待っていると考えれば、部活も、友達と遊ぶことも我慢できました。高校生活は勉強ばかりで楽しくありませんでしたが、そのおかげで夢は叶えられそうです。私は指定校推薦という枠を使い、逃げになってしまったので後輩の皆さんに強くは言えないのですが、本気を出して一日中勉強する生活を続ければ、絶対とは言い切れないけれど、良い結果を残せるのではないかと思います。

「受験体験記」

帝京大学（医療技術学部臨床検査学科） 女子Mさん

私は第一志望の大学に合格することは出来ませんでした。受験を経験した身として、少しでも参考にさせていただけると幸いです。

私は3年間で、受験に向けての学習に必要なこと、使うべき問題集、教材など、様々な情報を先生方、先輩方から得ることができました。その中で、何が自分に合っていて、継続することができるのかを見極め、行動に移すことができれば、学習態勢を整えることができると思います。私の3年間で振り返って、学校生活の中で学習をどのように進めていたのかを話していきたいです。

まず1年生の時、私はとにかく必死に勉強に取り組んでいました。特に、国語、数学、英語の3教科に力を入れました。そのため、模試や定期テストでもある程度高い点数を維持できていたと思います。どの教科もそうですが、勉強は日々の積み重ねがとても大きいです。1年生、2年生で頑張れば頑張るほど、3年生での学習する姿勢や、応用問題に対応できる力がより身についていくと思います。2年生になり、学習が難しくなっていくにつれ、私は上手く勉強に対する意識を向けることができなくなってしまいました。授業についていけないことが増え、予習復習を器用にこなせなくなってしまいました。今思うと、その頃から成績を上げることが難しくなっていたのだと感じています。周りの人たちが学習に対して熱心に取り組んでいたため、自分との温度差をより感じてしまいました。やはり良い成績を残している人たちは自分が今やるべきことを理解して学習に一心に取り組んでいます。自分の行きたい大学、学びたい学問がしっかりと定まっていれば、その目標に向かって、ひたすら頑張るしかないのだと思います。挫折を経験しても、諦めることのない力のある人が最終的に残っていくのだと実感しました。また、3年生に上がったら、共通テストの演習や、様々な模試が休む暇もなく入ってきます。そこで大切なのは解き終わった後の解説を見ながら問題を復習し理解するまで読み込むことです。一度間違った問題は、次に解く際に間違えることが無いようにする必要があります。そして先生方は結果において、常日頃から、私たちに「結果に一喜一憂するな」とおっしゃっていました。本当にその通りだと思います。自分の成績が思うようにいかなくても、少しずつ解ける問題を増やしていけば良いと思います。模試がどんな結果でも一番大切なのは、受験本番でどれだけ実力を発揮できるか、最終的に志望校に合格できるかということだからです。その合格をつかむということに関してですが健康面についても伝えたいことがあります。個人的なことになりますが、私は体調を崩しやすく、最後の1年間は特に辛かったように思います。それは、夜遅くまで勉強したり、風邪をひかないようにする対策が出来ていなかったりしたからです。そのため、自分自身の体調管理をすることもとても大切です。どれだけ試験のために勉強してきても、本番当日に体調が悪くなってしまえば元も子もありません。実際私は、当日体調が悪くなってしまい、実力を発揮できなかった試験がありました。皆さんには、そんな苦しい思いをしてほしくはありません。1分でも長く勉強に費やしたい気持ちはよく分かりますが、早寝早起きを心掛けるなど無理をしすぎない程度に頑張りたいと思います。

最後になりますが、私は、後期試験まで諦めずに受け続け、合格することができた大学がありました。今はその大学に通っています。後期試験は倍率も高く、可能性が低いと思っていましたが、最後まで頑張った良かったと思っています。向かう方向は生徒皆さんそれぞれですが、友人と共に、時には助け合いながら、最後まで走り抜けること、受験がすべて終わった時、皆さんが後悔せず納得した形で春を迎えられることを願っています。自分を信じて頑張ってください。応援しています。

受験体験記

工学院大学（先進工学部応用科学科） 女子Nさん

まず、私は自己推薦を受けるにあたり始めたのは自己推薦書を完成させることです。私が受けた大学では出願要項はすべて大学に請求し、初めて知ることができました。要項がわからないまま志望理由学びたいこと、今までやってきたことをかき出し先生に添削してもらいました。出願要項を手に入れることで大学が求める人材に寄り添った形にしました。自己推薦書をつくるに当たっても最も重要と感じたことは素材の多さです。まず、箇条書きにしてすべて書き出し、結び付けてストーリーを作りました

自己推薦書ができあがって出願を済ませ次は面接練習です。先生方に頼んで質問を用意してもらいました。先ず答えをかき出し答えるイメージトレーニングを何回もしました。それを面接練習で答え、その都度アドバイスをもらいました。質問内容は先輩方の受験レポートを見て予想しました。自分が提出した自己推薦書に沿って質問されます。この時に書いた内容を全部伝えるのではなく一番に伝えたいことを簡潔に話面接官の方に話を膨らませるかどうかの判断を任せるほうが答える時のプレッシャーが少なくまた、大学側が聞きたい話につなげることができるのでお勧めです。

学力試験もあったので勉強も欠かさず行いました。学力試験の過去問を解きました。本試験でもパターンが同じ問題もありました。おすすめは試験少し前に過去問を解くことです。焦ってしまうので試験直前には全問溶けるようにしておきましょう。

試験の前日は過去問をもう一度解き、解法をさらっただけです。できないことで焦りたくなかったので新しいことは何もしていません。

推薦は本来の勉強をすることに加えてやらなくてはならないことが増えるので、独特の焦りや不安があると思いますが、不安を少し手も取り除くのは、やはり勉強をたくさんやることです。たくさん勉強して自信をもって取り組んでください。

受験体験記

群馬大学（医学部保健学科理学療法学専攻） 鈴木 美結

共通対策

とりあえず模試は毎回解きなおすべきです。何をすればよいかわからず時間を無駄にするくらいなら模試を解きなおしてください。こんな問題分かるわけないと思って解き方だけは理解して公式などのさまざまな使い方を知っていることが大切です。何度も模試を受けていると、この形の問題はこの公式でこの順で解くなどということが分かるようになってきます。そこに説きなおしを重ねることで模試本番に頭が真っ白になってもどれかの解き方は思いつくはずです。何度も言われていることかもしれませんが、後悔の無いように可能な限り勉強に時間を当てましょう。今日は少しだけ……の積み重ねで共通が近づくとともに後悔も募ります。オールしようか迷うくらいなら毎日コツコツ続けましょう。「量より質」とも言いますが、勉強時間を記録することは自信にもつながるので、勉強を毎日続けるために一度試してみるのもあります。

2次対策

自分の場合小論文のようなもの、読解、論述（理系）の三つで構成された2次試験でした。（+面接）

すべて教科担当の先生方に問題のプリントアウトや添削をお願いしました。過去問を解いたものを添削していただいて一緒に問題の傾向や形式を把握してもらい、似たような問題を出してもらうのも良いと思います。

論述（理系）は物理→セミナー後ろのページから対策、先生にプリントをもらって添削してもらおう。教科書の「発展」「参考」をよく読み言葉の意味を理解する、などの対策を行いました。直前に公式の確認や安心のため試験会場には教科書を持っていきました。面接については出来るだけ多くの先生方に対策してもらってください。どんな面接官でもだいたいに対応できるようになると思います。丸暗記するとすぐばれるので、言いたいことを頭の中に何となく入れておいて文にするのが良いです。早口になると言葉に詰まるので、ゆっくりで大丈夫です。練習のたびに言い回しが変わるほうが本番で言いやすいかと思います。最後に、面接はどれだけ対策をしても緊

張します。緊張している自分を俯瞰してみると馬鹿らしくなってくるので、緊張がほぐれるかもしれません。皆さま頑張ってください。

使用した参考書 理科 教科書 セミナー 共テ対策副教材
 数学 定期試験で基礎定着 4ステップ 青チャート
 英語 ネクステージ
 地歴 定期テストで基礎定着 共テ対策副教材 10 分間テスト (グラフ・資料)

受験体験記

駒澤大学（文学部地理学科地域環境研究専攻） 女子Oさん

私は理系のクラスに在籍しながらも、文系の地理学科に進学しました。2年生の時には理系の仕事に就きたいと思っていましたが、3年生の時に自分の好きなことをもっと学び深めたいと思い、地理学科を目指しました。

自分が学びたいことを具体的に持ち、様々な大学のオープンキャンパスに参加しました。私の考えとしては、ぜひ、オープンキャンパスには親と参加してもらいたいと思います。友達と行き、帰りに遊びながら帰ってくるのもとても楽しかったのですが、自分では気づかない親目線の意見にうなずくこともありました。できれば電車で行くのがオススメです。駅からの距離はどうか、周りには何があるのかなどが分かります。事前に調べておくと、もしかしたら車がないと不便なこともわかると思うので、電車で行くとしたら……ということを考えてみてください。

一般で国公立にしても私立にしても、教科数が足りない、不得意の教科を選択しなくてはいけないほど厳しい現実問題が多くありました。そのため、私は生徒会活動をしていたので、それを活かすことのできる推薦入試で受験しました。自己推薦書の作成などがあり、なぜその学部学科なのかなど、基本の問いを大切にしました。「他にも同じ学部の大学があるのに、なぜその大学なのか」この問いを深めることができれば、面接の対策にもなり、自分のぶれない思いができて絶対合格するぞ！という強い思いになると思います。

わからないことは、先生方にどんどん聞くことも大切です。頑張ってください。

【おすすめの参考書・問題集】

・『大学入試 地理B』

記述の問題が面白いほど解ける本。解き方が分かりやすい。

・共通テストの過去問題集

記述の前に、基礎知識をつけるために役立った。

・国公立の過去問題集

教科担任の先生が対策として出してくれた。難しいものもあったが、文章量が多い問題を中心にやっていたので、当日に焦らずできた。

受験体験記

福島大学（農学部食農学類） 女子Pさん

私は、総合型選抜で受験するにあたり、受験の4か月前から準備を始めました。その中で、私がより力を入れていたことは「志望校を研究する」「とりあえず書き出す」「先生方に質問をする」です。

一つ目の「志望校を研究する」では、ホームページや大学の卒業生などのコメントを調べるなどしました。自分に合った大学なのか、どこが合っているのかなどを調べました。

二つ目の「書き出す」では、調べたことや自分の心が動かされた経験など、思いついたことをとりあえず書き出しました。その中から特に重要なことや大学にアピールしたいことなどを選び、その内容をもとに自己推薦書を書いたり、面接の練習に使用したりしました。

三つ目の「先生方に質問をする」では、少しでも疑問に思ったことや、心配事などを質問したり相談したりしました。自分で書いた文章などの添削やアドバイスをしていただくことで、よりよい推薦書を書くことができました。

また、入試前にしておけばよかったことは、大学のオープンキャンパスに行くことと、他の大学の小論文の問題を解くことです。オープンキャンパスに行くことで、大学の雰囲気や入試の情報などを知ることができるからです。そして、他の大学の小論文を解くことで、様々な出題方法を知り、本番に焦ることなく解くことができました。

後輩の皆さんも、受験頑張ってください！

受験体験記

国際医療福祉大学（保健医療学部看護学科） 女子Qさん

私は、部活動や校外活動を1年生の頃から積極的に取り組んだり、定期テストでも成績上位者に載れるように努力したりしてきました。そのため、公募型学校推薦を利用して合格をいただきました。推薦入試だったので小論文や面接があり、一般常識問題のテストと国・数・英・理・社の勉強も並行して行っていたので、推薦を目指すだけでなく一般でチャレンジする人たちの役にも立てればうれしいです。

まず、大学進学を目指す人全員に言いたいことは、志望校を早い時期から考えることです。私は東京で大学生活を送ることに憧れがあり、自分のレベルよりも低い大学でもいいから東京へ行こうとしていました。しかし、どこか心の中で今までの頑張りを捨てて、ましてやレベルを下げても東京へ行くべきなのかという迷いもありました。同じ看護学部で国家試験を受けるのだから、どこへ行っても同じだと思っていました。しかし、私は両親に「友達の質を考えなさい」と言われ、考えが改まりました。トップ英進部・英進部に通う皆さんなら、日々競い合うことができる友人の大切さを知っていると思います。もちろん立地も大切ですが、そればかりにこだわらず、自分のやりたいことや大学の就職状況などを重視することが大切だと思います。私は中々意志が固まらず、先生や両親と何度も話し合って進路を決めました。今でも少し東京への憧れはありますが、目標である看護の道へ進むことができ、この大学へ入学できて心からよかったと思っています。

学習面では、絶対に基礎を固めることが必要です。私は数学がとても苦手で、数学を入試に使いたくないとずっと思っていました。しかし、理系の大学で数学から逃げることのできる大学は少なく、嫌々ながらなんとなく勉強していました。実際に志望校が決まり数学の勉強を始めたものの、忘れていることが多かったので青チャートで基礎の部分を何周も解きました。入試1か月前は人生で一番勉強し、隙間時間や自習の時間を大切にしました。

進路を考えたり、決めたりするのに早すぎることはないと思います。今のうちからどこへ行きたいのか、それが厳しいときどこを第二志望にするのかをなんとなく考えておくことで、高3の夏休みからの気持ちの持ちようが全然違うと思います。トップ英進部・英進部の後輩のみなさんが全員第一志望に合格できることを祈っています。

【おすすめの参考書・問題集】

- ・『数学I・A 青チャート』
例題・演習のサイクルをつくることができた。
- ・『Next Stage』
単語のアクセントや熟語などを一冊で学べた。
- ・『一般常識問題集』
時事問題を学べた。